

そのカラダのお悩み

# 腸内フローラ検査で 解決のヒントを見つけませんか？

こんな方におすすめです



お腹の調子が悪い



痩せにくい



ストレスが多い



肌荒れしやすい



食生活が乱れがち



免疫機能が不調

腸内フローラ検査サービス

## Mykinso Pro

マイキンソープロ

医療機関導入実績

国内 No.1  
(自社調べ) ※①

累計検体数

10万 件以上

マイキンソー管理栄養士による、あなたの腸内環境  
に合った食事や生活改善アドバイスつき



あなたの腸内環境を  
**A~Eの5段階**で判定



「腸活ご相談コール」でマイキン  
ソー管理栄養士に直接検査結果や  
腸活について電話相談ができます

腸内フローラについては  
二次元コードから (動画)



※① 株式会社サイキンソーが過去5年間 (2019年~2023年) に企業展示を出展した学会や展示会において、16S rRNA遺伝子解析手法の腸内フローラ検査を医療機関に提供している会社を調査し、医療機関導入実績 (導入施設数) を比較。 (2024年7月時点)

検査結果の詳細イメージは裏ページへ

CY24-0002

## 腸内フローラ検査

通常価格

# 16,500円 (税込)

お問合せ・ご予約は、

TEL: 050-1808-9011

受付時間 / 午前9時00分~午後16時00分 (土日祝日を除く)

SHINJUKU  
OIWAKE  
CLINIC

新宿追分クリニック  
新宿追分クリニック・レディース

# 検査の流れ **自宅できんたん!**



## よくあるご質問

### Q 検査でどんなことが分かりますか

**A** 腸内フローラの総合判定や生活習慣病等の疾患別リスク判定、有用菌や要注意菌などの結果が分かります。菌の結果に合わせてカスタマイズされた、改善アドバイス(管理栄養士監修)もついています。

### Q 検査結果や腸活の内容について相談できますか

**A** 検査結果公開後は、「腸活ご相談コール」サービスにて、無料で株式会社サイキンソーの管理栄養士とマンツーマンで電話相談が可能です。※事前予約制

### Q 検査結果は紙ですか、webですか

**A** webです。「マイキンソーパーソナル」内の検査結果ページよりPDF生成と印刷が可能です。  
※「マイキンソーパーソナル」へのご登録が必須となります。

### Q 検査を受けられない人はいますか

**A** 16歳以上の方であればどなたでも検査可能です。抗生剤服用中と服用後1ヶ月間、生理期間中、バリウムや下剤の服用直後はなるべく採便をお控えください。

# 検査結果レポートイメージ (一部抜粋)

## 腸内フローラ判定

腸内フローラバランスを5段階で評価します。

### 腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A~Eの5段階で腸内環境を評価してD、E判定の場合は、バランス崩壊(ディスバイオーシス)が疑われるため、積極的な必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

**E** **判定** バランスが悪い(ディスバイオーシスの疑い)

前回: D 前々回: -

#### コメント

有用菌が全般的に少なく、フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月再検査をおすすめします。

## 疾患別リスク判定

糖尿病、高血圧、大腸がんなどの腸内フローラからみた疾患リスクがわかります。

### 疾患別リスク判定

#### 機能性下痢 (IBS)



前回: 低 前々回: -

#### コメント

腸内フローラのバランスから見たIBS)のリスクは低いと考えられ、引き続きp.5のような生活習慣を

## 改善アドバイス

不足している有用菌の増やし方や、要注意菌の改善方法などがわかります。

### 個別注目菌 (有用菌)

#### 改善ポイントトップ3

p.4の個別注目菌(有用菌)の結果を改善するために、あなたにとって特におすすみの、具体的な改善実践方法やアドバイス上位3項目です。

#### 1 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサになる水溶性食物繊維や糖アルコールが含まれています。特に旬を迎えた果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物が理想的な習慣です。

##### この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌 (ラクタノスビラ)
- やせ菌 (クリステンセネラ)
- アクティブ菌 (ロゼブリア)
- アクティブ菌 (モングロバ)

#### 2 運動

適度な運動は、自律神経に良い影響を与え、排便に必要な腸内作用にも繋がります。マイキンソーデータでは、週に60分以上運動している人ほど菌叢が安定傾向にあります。

##### この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌 (ラクタノスビラ)
- アクティブ菌 (ロゼブリア)
- 酢酸産生菌 (ビフィズス菌)
- アクティブ菌 (ブチリソコッカス)
- アクティブ菌 (モングロバ)

#### 3 牛乳・チーズの摂取

牛乳やチーズには、腸内細菌のエサとなるオリゴ糖が含まれています。マイキンソーデータでは、牛乳・チーズの摂取頻度が高いほどビフィズス菌の保有率が高い、というデータもあります。

##### この生活習慣で改善できる菌

- 酢酸産生菌 (ビフィズス菌)
- やせ菌 (クリステンセネラ)
- アクティブ菌 (モングロバ)

### 健康長寿命菌判定

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(酢酸産生菌)」と「ファーカバクテリウム」を保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の部



前回: 2種とも豊富 前々回: -

#### コメント

ビフィズス菌(酢酸産生菌)p.4の個別注目菌の結果

## 健康長寿命菌判定

元気な高齢者の方に多い菌を3段階で判定します。

## 有用菌/要注意菌の割合

良い働きをしている有用菌や、悪い働きをしている要注意菌の割合がわかります。

カテゴリ	検査項目	菌内訳(属レベル)	結果(割合)	前回	前々回
有用菌	酪酸産生菌	ファーカバクテリウム アナエロスティベス クロストリジウム	9.24%	↑	↑
	酢酸産生菌	ビフィドバクテリウム (ビフィズス菌)	1.17%	↑	↑
	プロピオン酸産生菌	ディアリスター	0.00%	↑	↑
	エクオール産生菌	アドレクローツィア スラックア	0.87%	↑	↑
	やせ菌	クリステンセネラ	0.00%	↑	↑